

11 月 9 日 「ブラフマンとジャガットについての議論」

ブラフマンの3つの現れについて

ヴェーダーンタを勉強する上で基礎的なことは、argument（議論、論拠、主張）です。どうしてそれが、正しいのか、正しくないのか、聖典の内容や先生の意見を argument して、その答えを探して理解しないとイケません。

ウパニシャッドの中では、ブラフマンの3つの現れについて説いています。1つは「ブラフマン（ミクロレベルではアートマン）について」、もう1つは「宇宙について」です。すべてマクロレベルで説いています。そして、最後はミクロレベルで、「私」個人についてです。

最終的に私たちの勉強の中心は「私」です。マクロレベルで考えるのは難しいですから、個人レベルで考えます。勉強の目的や結果は、最終的に「私自身」のためです。

ブラフマン（真理、実在）は1つだけです。しかし、宇宙には多くの生物が生息しています。ブラフマンは実在です。実在は1つしか存在しないのに、宇宙には多くの存在があります。その宇宙の本性を理解すること、そして、私の本性を理解することが大切です。

本当は、ブラフマンだけが存在しています。知識のある人は、1つの存在だけがあるのを知っています。しかし、私たちには無知のマーヤーがありますから、「ブラフマン」「宇宙」「私」、この3つの存在があるように映ります。ウパニシャッドでは、その3つの論点からブラフマンの存在を、宇宙の存在を、個人的にはアートマンの存在を説明しています。

バガヴァッド・ギーターの2章にアートマンについて説明が沢山あります。

ナイナン チンダンティ シャストラニ ナイナン ダハティ パーヴァカハ  
Nainam chindanti śastrāṇi nainam dahati pāvakaḥ /  
ナ チャイナン クレダヤンティ アーポー ナ ショーシャヤティ マールタハ  
Na c' ainam kledayanty āpo na śoṣayati mārutaḥ // 2-23

いかなる武器であろうと、魂を切り刻むことはできぬし、火で焼くことも、水で溶かすことも、  
風で枯らすこともできない。

アッチェーティヨーム アダーッヒヨーム アクレッテヨージョーツシャ エヴァ チャ  
Acchedyo 'yam adāhyo 'yam akledyo ' śoṣya eva ca /  
ニッチャハ サルヴァガタハ スターヌフ アチャローヤン ナータナハ  
Nityaḥ sarvagataḥ sthāṇuḥ acalo 'yam sanātanaḥ // 2-24

この魂は、壊れもせず、焼けもせず、溶けもせず、枯れることもない。いつでも、どこにでも在り、  
不変、不動、永遠の実在なのだ。

アヴヤクトーヤム アチンティヨーム アヴィカーリヨーム ウッチャター  
Avyakto 'yam acintyo 'yam avikāryo 'yam ucyate /  
タスマード エーヴァン ヴィティットヴァイナン ナーヌショーチトゥ アルハシ  
Tasmād evaṁ vīditv' ainam n' ānuśocitum arhasi // 2- 25

それは、眼で見ること、心で認識することもできないが、永遠に変化しないものだと言われている。  
そのことをよく心得たなら、君が嘆き悲しむ必要はないはずだ。

また、ブラフマンの本性についてはバガヴァッド・ギーター5章 16 節から 23 節にかけて書いてあります。

ウパニシャドでは、ブラフマンについて、ミクロレベルでアートマンについて、いっぱい書いてあります。そして、宇宙についても、宇宙の本性は何か、宇宙はどのように創造されたか、個人についてのいろんな人格のレベル…その基礎について、説明があります。

これら3つの状態は、バラバラではありません。ブラフマンと宇宙と私との関係性についても、ウパニシャドでは説明しています。最終的には、無知のマーヤーによって別々に見えますが、その3つのうちの本当のものは、1つだけです。

### 私たちの理解…物を区別するのは名前と形

今日の話は、ブラフマンとジャガットについてマナナする方法です。

東インドにプリーという聖地があります。そこには、有名なジャガンナートテンブルというお寺があります。ジャガットが「宇宙」、ナートが「持ち主」、合わせて「宇宙の持ち主」という意味のお寺です。ベナレスには、ヴィシュワナートテンブルという有名な寺院がありますが、ジャガットとヴィシュワは同じ意味です。

ジャガットは文法的には、gam「行く」という意味です。そこに接尾辞の kwip「続く」という意味を合わせて、ジャガットになりました。

宇宙はずっと動き続けています。私たちがなくなっても止まりません。宇宙はずっと続きます。本当は永遠ではありませんが、宇宙は永遠みたいです。しかし、創造・維持・破壊の「破壊の時」は精妙な状態に戻ります。破壊の時は、種の状態になり、創造のときにまた現れます。

ブラフマンは1つの姿、そして、ジャガットが別の姿です。それについてウパニシャドにはたくさんのお話が出ています。ウパニシャドによると、私たちの見方で、宇宙には多くの存在があります。多くの生き物や植物、鉱物があります。また、自然もあります。そして、神々の世界などもあります。

その個別を理解するために、これらを分類していくと、分類の基準は、名前、形、性質、行動などによって、区別することができます。また、場所や時間、因果によって区別することもできます。それで宇宙の現象を説明しています。区別をもっとシンプルにまとめると、「nama rupa」名前と形になります。それが基礎です。私たちが、物と物とを判断する基礎が名前と形です。それによって、それが何かを理解します。

### 無知の例え…チャンドウーギャ・ウパニシャドより

ヴェーダーンタとは、非二元論です。ウパニシャドは、「真理は1つです。本当の存在は1つだけです。」といっています。しかし、私たちの見方では、名前や形の名前は、この世にいっぱい存在していますし、ブラフマンも存在しています。名前、形、ブラフマン、この3つの存在が私たちにはあります。しかし、聖典の結論は、「ブラフマンだけが存在しています」と答えています。

すると、私たちの心の中に、自然に疑問がおこります。聖典が「ブラフマンだけが存在している」というなら、私たちは、多くの名前や形、性質、時間、因果をみていて、「どうして、ブラフマンが見えない」のでしょうか？ それに対してマナナをする必要があります。

それに対する答えは、私たちには、無知があります。無知のマーヤーの影響で本物を見ることはできません。

例えば、マジシャンはいろんな魔法を使います。ある有名なマジシャンは、ポットに入った約10リットルの水を一気に飲んで、ポットの水を空にしました。そして最後にまた、ポットに水を戻すというマジックをしました。それは、本当に飲んでいのでしょうか？それは、イリュージョンです。幻です。それがマジックです。それと同じで、私たちには、イリュージョンがあります。それが無知です。

また、肝臓の病気の人は、黄疸が出ます。目にも黄疸が出ると、すべてのものが黄色に見えます。ゴーグルもいろんな色がついています。ゴーグルをかけて外を見るとその色に見えます。その色眼鏡がアグジャーナ(無知)

です。その色眼鏡という無知で、この世界を見ているから、ブラフマンが見えません。皆、名前、形を見えています。しかし、私たちはその色眼鏡をかけていることを知りません。それが普通と思っています。大丈夫だと思っています。

今、私たちがその状態ですから、議論をして証明することが大切になります。証明すると、「本当はブラフマンだけが存在している」という聖典の言うことが正しいのです。

まず、私たちは、目の前にあるものを、先ほどの方法で区別します。自分の身体も、目、耳、鼻、髪の毛と色々あります。「私」は同じですが、部分の名前は別々です。いろいろ分類して、名前、形、性質などに区別しますが、基本的には、名前によって区別しています。

ウパニシャドでは、その名前についてマナナがしやすいように、3つの例えを使って説明しています。

*yathā somyaikena mṛtṭpīḍena sarvaṁ mṛṇmayāṁ vijñātaṁ syādvācārambhaṇaṁ vikāro nāmadheyāṁ mṛttiketiveva satyam / chāndogya upaniṣad 6.1.4*

ソーミヤよ、それはこのようなものだ：地球の単一の塊を知ることによって、あなたは地球でできているすべての物体を知る。すべての変更は単なる言葉であり、名前だけです。しかし、地球は現実です。

yathā: たとえば saumya: 息子よ ekena: 1つの mṛt: 土の pīḍena: 塊を知ること  
sarvaṁ: 全ての mṛṇmayāṁ: 土製のものを、土で作った全てのもの vijñātaṁ: 理解できます  
ityeva: である事が、 satyam: 真実です。

この節は、土でできたものは、名前が違うだけだと言っています。違いは、言葉だけです。その名前を取り除くと、基礎は土です。もう少し詳しく説明すると、陶器でできたコップ、お皿、お茶碗、丼など、いろいろな名前と形がありますが、それが壊れてバラバラになると、もう「コップ」や「お皿」とは言いません。その時、名前と形はなくなって、土だけが残ります。その土で作った物は一時的ですから、非実在です。永遠なものは、土です。ここでの土は、相対的な永遠のことを言っています。相対的な永遠ですから、ブラフマンとも違います。それを理解してください。

次は、金について例えを使っています。

*yathā somyaikenanā sarvaṁ lohamayāṁ vijñātaṁ syādvācārambhaṇaṁ vikāro nāmadheyāṁ lohamityeva satyam / chāndogya upaniṣad 6.1.5*

ソーミヤよ、それはこのようなものだ：単一の金の塊を知ることによって、金でできたすべての物体を知ることができる。すべての変更は単なる言葉であり、名前だけです。しかし、金は現実です。

lohamāṇi (ロハモニ) が、「金」という意味です。基礎的な金属は金です。その金からいろんな装飾品が作られます。金細工師によって、金塊から、指輪、鼻輪、首飾り、耳飾り…いろいろな形に金が加工されます。そして、デザインに飽きてくると、それを炉の中に入れて溶かして、また新しいデザインの金の飾りを作り直します。すると、また新しい形と名前ができます。

土の場合、陶器は割れてしまったら再生することはできませんが、金は何度でも再生することができますから、この例えの方が分かりやすいです。最初は名前と形がありましたが、炉に入れて溶かすと名前と形はなくなります。そして作り直した後、また名前と形ができます。名前と形は一時的です。本当に正しいのは、金です。金が実在で、名前と形は非実在です。すべての宇宙もそうです。本当の基礎はブラフマンです。そのブラフマンに名前と形が重ね合わさっています。無知によって、重ね合わさっています。

ヴェーダーンタに、縄と蛇の有名な例え話があります。

暗さの影響で、本当は縄なのに、蛇を見ている話です。無知の暗さの影響で、縄に蛇を重ね合わせています。2つの言葉を使っています。「重ねる」と「合わせる」です。そこに懐中電灯の光をあてると、本当は蛇ではなく縄だけがあることがわかります。そして、「どうして私は縄をそんなに恐れていたのだろうか」と思います。

私たちは、無知の暗さの影響で、重ね合わさった名前と形を見えていますから、苦しみ、悲しみ、恐れ、心配がです。本当に理解すれば、ブラフマン以外何も無い、ということがわかります。そして、すべての苦しみ、悲しみはなくなります。これがマナナです。

3つ目は鉄を例えています。

*yathā somyikena nakhanikṛntanena sarvaṃ kārṣṇāyaśaṃ vijñātaṃ syādvācārambhaṇaṃ vikāro nāmadheyam  
kṛṇāyasamityeva satyamevaṃsomya sa ādeśo bhavatīti / chāndogya upaniṣad 6.1.6*

ソーミヤよ、それはこのようなものだ：たった1つの釘抜きを知ることによって、あなたは鉄でできたすべての物体を知る。すべての変更は単なる言葉であり、名前だけです。しかし、鉄は現実です。おおソーミヤよ、これが私が話した教えです。

宇宙は、ブラフマンだけが存在しています。ブラフマンだけですが、名前と形によって、私たちは、いろいろなものを見えています。1つのものと違うのは、名前だけが違います。もっと議論を続けていくと、土も本当は実在ではなく、その土の基礎がブラフマンです。ブラフマンの上に、ある時は土、ある時は火、ある時は鉄…それを重ね合わせています。本当に正しいのはブラフマンです。

## 11月16日「マーヤの説明とギャーナ・チャクシュ知識の目」

### 「宇宙の基礎だけが永遠」それがブラフマン

ブラフマンに名前と形を重ね合わせると、宇宙（ジャガット）が現れます。私たちは、自然に重ね合わせています。特別な方法はありません。なぜなら、私たちには無知があるから、自然に重ね合わせるのです。しかし、その無知は永遠のように見えますが、一時的なものです。もし無知が永遠なら、私たちは悟ることができません。

宇宙の基礎だけが永遠です。それがブラフマンです。それを理解しないと、霊的実践の意味がありません。

ブラクリティ、マーヤー、アッギャーナは、同じ意味の言葉です。私たちの本性は、永遠です。「サット、チット、アーナンダ」ですが、無知の影響で、「私たちは罪びと。」「私たちはとても弱い。とても小さい。」「私たちは束縛されている。苦しみがある。楽しみもある。ストレスもある。」と考えています。

それは、すべて身体と心の関係です。魂は、苦しみも、悲しみも、ストレスも、恐れも、束縛もありません。いつも至福で、自由で、賢いものです。マーヤーの色眼鏡を掛けているので、そのように見えるのです。

### マーヤーについての詳しい解説

マーヤーとは何かをもう少し説明していきます。

マーヤーは、ブラクリティのトリグナ（サットワ、ラジャス、タマス）で作っています。グナは性質という意味ですが、面白いのは、性質も物質です。性質と物質を合わせて、ひとつのグナを作っています。

普通、物質があり、その性質があります。水を例えると、冷たい水、熱い水など性質があります。人にもいろんな性質があります。完璧な人、仕事ができる人、とても慈悲深い人など、性質があります。一般的に、物と性質の両方が合わさって、グナができています。サットワの性質は、その物質も合わさってサットワになってま

す。それが面白いコンセプトです。

身体は、五大要素のタマスの部分でできています。その身体の性質は局面です。しかし、物質がないと、その局面はありません。肉体は粗大なものですが、その性質は精妙なものです。そのため、肉体は、タマスのグナで出来ていますが、グナの性質だけではなく、物質である肉体も合わせています。それを理解しないとイケません。

2020年の「新バガヴァッド・ギター講座（逗子協会）」の時に、3つのグナについて詳しいことを説明してあります<sup>注1</sup>。今は詳しく説明しませんが、大事なことは、サットワ、ラジャス、タマスのひとつひとつに性質と物質があるということです。

サットワの性質は、すべて完璧なもの、神聖なもの、純粋なもの、いつもバランスが取れた性質です。

ラジャスの性質は、いつも動いているもの、野心があります。欲望もあります。執着もあります。

タマスの性質は、動かないもの、とても怠け者、鈍いもの、その種類のものがタマスのです。

宇宙は、3つのグナをいろいろな割合で、その五大要素を混ぜてつくられました。結果として、宇宙すべてのものの中、人間や、その他の生き物、物質の中に、3つのグナがあります。

そのグナをすべて合わせて、マーヤーという言葉を使っています。

そのマーヤーはどのように働いていますか？ すべての基礎、本性であるブラフマンを最初は覆っています。特別な言葉で、「アッディヤーローパ (adhyāropa)」といいます。意味は、「或るものの特性を誤って別のものに帰する」です。ウパニシャドを勉強する上で基礎的な考えですから、理解して覚えてください。

アッディヤーローパは2つの言葉を使っています。アッディ（上に）、アーローパ（重ね合わせる）、合わせて「<sup>アッディヤーローパ</sup>adhyāropa」、意味は、「重ね合わせる」です。

アッディヤーローパの中には、2種類の言葉があります。1つは、アーヴァラナ (āvarana・覆う、被せる)。例えば、物にカバーをかけると見えません。そのように、マーヤーはブラフマンをカバーしています。

もう1つは、ヴィクシェーパ (vikshepa・別のものを見せる)。薄い布ではなく、もっと厚い布を被せると、私たちは、その厚い布だけを見て、その後ろにあるものを見ることができません。その厚い布の後ろにある物のイメージが出ません。本物を見ないで、そのカバーを見ます。本物ではなく別のものを見ます。

アーヴァラナ「覆う・被せる」、ヴィクシェーパ「別のものを見せる」。それが、アッディヤーローパです。

ヴィクシェーパによって、私たちは、何々さん、誰々さんと言ったようにいろいろなものを見ます。無知の暗さの影響で、本当は縄なのに、蛇を見ます。無知とプラクリティ、アッギヤーナ、マーヤー、意味は同じことです。蛇はヴィクシェーパ、全然別のものです。

私たちの本性は、サッチダーナンドですが、マーヤーの影響で、本性を覆い隠して、苦しみがいっぱい、悲しみがいっぱい、無知がいっぱい、束縛がいっぱい、恐れがいっぱいになっています。すべてヴィクシェーパです。本当は、いつも喜び、いつも幸せ、いつも自由です。

また、マーヤーについて別の説明です。例えば蜃気楼です。

スワミー・ヴィヴェーカーナンド（以下スワミージー）は、「マーヤーとは何ですか」という質問に対して、講座の中で1つの説明をしています。

スワミージーは、シュリー・ラーマクリシュナが亡くなった後、インド中を巡礼に行きました。その時、砂漠の中を歩いていました。強い日差しの中、長い道のりを歩いていました。砂漠ですから、水はありませんが、突然スワミージーが「右に水がいっぱいの湖が見えました」と言いました。スワミージーは、喉が渴いていたので、湖の方向へ歩いていきましたが、湖も後ろに動いていきました。その時、スワミージーは、蜃気楼は知っていましたが、実際に初めて目にしました。そして、理解して、また歩き始めました。

蜃気楼の基礎は砂です。日光の反射によって、水が現れました。これがヴィクシェーパです。正しいのは、基

礎は、砂です。水ではありません。基礎は、水ではありません。私は罪びと、束縛、苦しみ、悲しみは、すべて想像です。

私たちの問題は、苦しみや悲しみがいっぱいということ。本当は、サット、チット、アーナンダですが、サットでもない、チットでもない、アーナンダでもない。それはマーヤーの影響です。

ですから、ヴェーダーンタを勉強する目的は、「アパヴァータ (apavāda)」。その意味は「取り除く」です。無知を取り除きます。無知を取り除くために、ヴェーダーンタを勉強して、霊的实践をするのが目的です。希望だけではできません。マーヤーの影響は前世からずっと続いていますから、何層にも厚くなっています。

少し瞑想して、少し考えて、少し勉強して、勉強しても実践しない…それでは、厚いマーヤーの層は、取り除くことはできません。そのために、長く、深い霊的实践をゆっくり、ゆっくり、我慢して、忍耐して、行う必要があります。

こびりついた汚れは、何度も何度も、洗剤を使って洗わないときれいになりません。もし、金の上に汚いものがあると、金は光りません。本当は光り輝いているのに、見ることはできません。そのために、時間をかけて汚れを綺麗にして、本来の輝きを取り戻さないといけません。

私たちの魂も、サッチダーナンダです。「希望」や「棚からぼた餅」では、魂はきれいになりません。いっぱい、いっぱい、実践が必要です。

### 悟った人とそうでない人の感覚器官の使い方

私たちは、目でものを見ますが、目自体は、感覚の道具です。粗大なものをタッチしますが、目の感覚は精妙なものです。粗大なものは道具です。

私たちと、悟った人の目は、何が違うでしょう？悟った人は、宇宙を見ないで、ブラフマンを見ます。しかし私たちは、ブラフマンを見ないで、宇宙を見ます。

悟った人の目、シュリー・ラーマクリシュナ、スワーミージーなどの目と、私たちの目は、同じですが、どうして私たちは、宇宙を見て、悟った人はブラフマンだけを見ているのでしょうか？

目をサンスクリット語では、チャクシュと言います。私たちの目の力は、人によって、また、生き物によっても違いがあります。人間と動物を比べても、フクロウは暗闇でも獲物を見ることができます。フクロウは、昼は見えませんが夜見えます。猫は、昼も夜も見えます。しかし、悟った人の目の力はこの種類の違いではありません。私たちは普通、目の前の人、パソコン、机、本など色々見っていますが、ブラフマンは見えません。しかし、悟った人は違います。例えば、協会発行の書籍「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯」にあります。

*「友人の前でシュリー・ラーマクリシュナの一元論をからかったことがあった。『この水差しが神で、この茶碗も神で、我々も神である、と言うほど馬鹿げたことがあるかね？』そして二人は大笑いした。*

*ちょうどその時、師が姿を現わされた。笑いの原因を知ると、優しくナレーンドラに触れて、深いサマーデーに入られた。この一触れが魔法の効果を生じさせ、ナレーンドラは新たな意識の領域に入った。宇宙全体に神の意識が浸透しているのを見た彼は、茫然として家路についた。食事中、食べ物にも自分自身にも、あらゆるものにブラフマンの存在を感じた。通りを歩いている時も、馬車、馬、人混み、そして自分自身があたかも同一の実質からなっているように見えた。数日後ヴィジョンは幾分弱まったが、それでもなおこの世を夢としか思えなかった。カルカッタの公園を散策していた時、鉄柵に何度も頭を打ちつけて、柵が現実なのか、あるいは単なる心が作り出した幻覚なのか知ろうとした。こうして彼が垣間見た不二元の世界は、やがてカーシプル・ガーデンにおいて完全な実現を見ることになるのだった。」*

（「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯 弟子の訓練 (P56 後ろから1行目～)」より）

ヴェーダーンタ協会では食事の前にお祈りをします。それは、バガヴァット・ギーター第4章24節にあります。スワミーは、その経験を本当にしました。

ブラフマールパナン ブラフマ ハヴィル ブラフマ-グナウ ブラフマナー フタム  
Brahm' āraṇāni brahma havir brahm' āgnau brahmanā hutam /

ブラフマイヴァ テーナ ガンタヴィヤン ブラフマ カルマ サマーディーナ  
brahm' aiva tena gantaavyani brahma-karma-samādhinā // 4-24

供養者としての大実在（ブラフマン）が、供物としてのブラフマンを、火としてのブラフマンの中に注ぎ入れる。こうした意識をもって供養する人は、必ずやブラフマンと一体になる。

スワミーはそれを、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵によって経験しました。そして、スワミーは、ヴェーダーンタの「アドヴァイタ（非二元論）」は、本当に正しいということ信じました。

私たちの目と、スワミーの目とは、何が違いますか。スワミーは、普通の人とは違います。シュリー・ラーマクリシュナが言っています。

「シュリー・ラーマクリシュナはそこに七人の尊いリシが瞑想に浸っている姿をご覧になった。彼らは智慧と神聖さにおいて神々にも優る、と思われた。そして彼らの無比の靈性に感服していると、その不可分の絶対者の一部が凝結して、神聖な子供の姿となった。その子がやわらかな両腕でリシの一人の首を優しく抱きしめて、何事かを彼の耳に囁くと、この魔法の一触れでリシは瞑想から目覚めた。リシに半眼の眼差しを注がれると、不思議な子供は言った。「私は地上に降りるよ。お前も一緒に来てくれるね？」柔和な表情でリシは同意を示し、再び深いサマーディーに入ってしまった。しかしリシの一部が光の姿を取って地上に降り、ナレンドラが暮らすカルカッタの家に落ちていくのを見たラーマクリシュナは驚かれた。そして師は初対面でナレンドラがそのリシの生まれ変わりであることにお気づきになったのだった。またリシを下生させた聖なる子供が他ならぬ師自身であることも認められた。」

（「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯 弟子の訓練（P49 後ろから6行目〜）」より）

私たちにシュリー・ラーマクリシュナがタッチしても、何も変わらないかもしれませんが、スワミーは、7人の尊いリシの1人でしたから、とても薄いマヤーの層だったので、タッチしてすぐに基礎のブラフマンを見ました。それが、私たちの目と、悟った人の目の違いです。

バガヴァッド・ギーターの中にも書かれています。10章では、シュリー・クリシュナはアルジュナに、自分の超能力をたくさん説明しました。（パタンジャリのヨーガ・スートラ3章の「ヴィブーディ・パダ」も超能力について説明しています。）

例えば、

「私は、ヴェーダ聖典の中ではサーマ・ヴェーダ、神々の中ではヴァーサヴァ（インドラ）神、感覚の中では心、生物の中では意識である。」（バガヴァッド・ギーター10章22節）

「私は、聖賢の中ではブリグ、音声の中ではオーム、供犠供養の中では唱名<sup>シキバ</sup>、動かぬものの中ではヒマーラヤである。」（バガヴァッド・ギーター10章25節）

「私は、馬の中では甘露酒<sup>アハリタ</sup>の海から生まれたウッチャイシュラヴァ、巨象の中ではアイラーヴァタ、また人々の中では王である。」（バガヴァッド・ギーター10章27節）

それを聞いてアルジュナは言いました。

マンニャセー ヤディ タッ チャッキャン マヤー ドラシュトゥム イティ プラボー  
Manyase yadi tac chakyam mayā draṣṭum iti prabho /

ヨーグシュヴァラ タトー メー トヴァン ダルシャヤートマーナム アッヴァヤム  
Yog' eśvara tato me tvam darśay' ātmānam avayam // 11-4

おお我が主よ！もしあなた様の宇宙的形相を拝見する資格が私にあると思われれば、  
あなた様の永遠不滅のお姿を私にお見せ下さい。おお、ヨーガの主宰神よ！』と。

アルジュナは、言葉だけでは印象ができませんから、シュリー・クリシュナの言ったことを完全に信じていたが、宇宙的形相を直接体験したいと思いました。

アルジュナはとても霊性の高い戦士であり、心もきれいで、宇宙の形相を見る資格がありましたから、シュリー・クリシュナは、親愛なる友人であり、また弟子でもあるアルジュナに、ご自身の姿を見せました。

シュリー バガヴァーン ウヴァーチャ  
Śrī Bhagavān uvāca:  
パッシャ メー パールタ ルーパニ シヤタシヨータ サハスラシャハ  
Paśya me pārtha rūpāni śataśo' tha sahasraśaḥ /  
ナーナー・ヴィダーニ ディッヴァーニ ナナー・ヴァルナークリティーニ チャ  
Nānā-vidhāni divyāni nānā-varṇ' ākṛtini ca // 11-5

そこで<sup>パラメーシュワラ</sup>至上神（クリシュナ）がおっしゃいます。『ブリター妃の息子（アルジュナ）よ！では見るがよい。  
何千何万という様々な性質と形と色とをもった、私の靈妙な姿を。

クリシュナは、今まで誰も、多種多様な神々でさえ見たことのない、無数の驚異の姿をアルジュナに見せました。しかしアルジュナは、その姿を何も見ることができませんでした。

ナ トウ マーン シャッキヤセー ドラシュトゥム アネーナイヴァ スヴァ チャクシュージャ  
Na tu mān śakyase draṣṭum anen' aiva sva-cakṣuṣā /  
ディッヴィア ダダーミ テー チャクシュフ パッシャ メー ヨーガム アイシュヴァラム  
Divyam dadāmi te cakṣuḥ paśya me yogam aiśvaram // 11-8

しかし、君が持っている肉眼では、私の<sup>てんげん</sup>普遍相を見ることはできません。だからいま君に天眼を授けよう。  
その天眼をもって私の神秘壮麗な姿と力を見るがいい』と。

ディッヴィア チャクシュフ ダダーミ テー  
Divyam cakṣuḥ dadāmi te このように、順番を入れ替えて意味を訳すと、「私はあなたに神聖な目（ディッヴァン・チャクシュ）を授けます」という意味になります。このディッヴァン・チャクシュが大事なポイントです。普通の目とは違います。私たちの目は、チャルマチャクシュ（皮膚の目）です。

ディッヴァン・チャクシュについては有名なコメンテーターのスワミーが説明しています。この言葉の中に、「3つの意味が含まれています」と。1つ目は、ディッヴィヤ、「神聖な」。2つ目はアローキック、「神秘的な」。3つ目がギャーナ、「知識」というアイディアです。普通の目は、アギャーナ・チャクシュ「無知の目」です。

普通の目ですから、いろいろな名前と形を別々に見ます。しかし、ギャーナ・チャクシュ「知識の目」では、神の本性を見ることが出来ます。そして、その目は本性をマナナして理解できます。

そして、アルジュナはその目をもらい、宇宙の形相を見ることができました。その詳しい形相の様子が、バガヴァッド・ギーターの11章9節から書いてあります。

その結果として、アルジュナはとても怖がりました。なぜなら、心の準備がありませんでしたから。そして、その結果、恐れができました。

もし、私たちの前に、1つの太陽ではなく、1000個の太陽が現れたら、私たちはどのような状態になりますか。もし、頭がいっぱい、手がいっぱい、足がいっぱい、その種類の生き物を見たら皆さんは、怖がらないでしょうか。

アルジュナは、シュリー・クリシュナに宇宙の形相を見たいとお願いして、シュリー・クリシュナは見せまし



たが、その結果は、11章45節に書いてあります。

アドリシュタ・プールヴァン フリシュトースミ ドリシュトヴァー バイエーナ チャ プラッヴァティタン マノー メー  
*Aḍṛṣṭa-pūrvam hṛṣito' smi dṛṣṭvā bhayena ca pravayathitam mano me /*  
タッド エーヴァ メー ダルシャヤ テーヴァ ルーバン プラシーダ テーヴェーシャ ジャガン・ニヴァーサ  
*Tad e va me darśaya deva rūpam prasīda dev' eśa jagan-nivāsa //11-45*

未だかつて見たことのない御相<sup>みすがた</sup>に接し、私は歓喜と同時に恐怖も感じております。神々の主宰者よ！  
全宇宙の保護者よ！何とぞ御恵をもってあなた様のもう一つの優しいお姿<sup>やさ</sup>をお見せ下さい。

アルジュナはとてもレベルの高い人でしたが、心の準備がありませんでしたから、恐怖がでました。アルジュナとスワミージーとは違います。シュリ・ラーマクリシュナがタッチして、すべてに神様を見せていますが、スワミージーには恐れがありませんでした。それは、スワミージーが悟った賢者（リシ）だったからです。グル（霊性の師）について賛歌があります。

グルル ブランマー グルル ヴィシュヌル グルル テーヴォー マヘーッシュワラハ  
*gurur brahmā gurur viṣṇur gurur devo mahēśvaraḥ /*  
グルフ サークシャート パラム ブランマ タスマイ シュリー グラベー ナマハー  
*guruḥ sākṣāt param brahma tasmai śrī-gurave namaḥ.*

グルは、ブラフマー（創造者）、ヴィシュヌ（維持者）、シヴァ（破壊者）であり、まさに至高のブラフマンです。その神聖なグルに、私は敬礼します。

アカンダ マンダラー カーラム ヴィヤーブタム イエーナ チャラーチャム  
*akhaṇḍa-maṇḍalā kāram vyāptam yena carācaram /*  
タトパダム ダルシタム イエーナ タスマイ シュリー グラベー ナマハー  
*tatpadam darśitam yena tasmai śrī-gurave namaḥ.*

生物と無生物で宇宙全体に浸透している意識を明らかにして下さるその神聖なグルに、私は敬礼します。

アッジャーナ ティミラランダッサヤ ギャーナーンジャナ シャラーカヤ  
*ajñāna timirandhasya jñānanjana śalākaya/*  
チャクシュル ウンミールタム イエーナ タスマイ シュリー グラベー ナマハー  
*cakṣur unmilitam yena tasmai śrī-gurave namaḥ.*

知識の目薬を塗ったスティックで、無知によって見えない目を開けて下さるその神聖なグルに、私は敬礼します。

グルに敬礼します。そのグルとは、知識の目薬で目を開けてくれる人です。今の私たちの状態は、無知の病気で目が見えません。グルは知識のスティックを使って弟子の目を開けてくれます。

ギャーナ・チャクシュとディッヴィヤ・チャクシュとは同じ意味です。普通の目とこの目はまったく違います。例えば、シヴァ神の額にひとつ目がついています。それがギャーナ・チャクシュです。普通は見えませんがあります。普通の人は閉じていますが、悟った人は、ギャーナ・チャクシュのお陰でその目が開いています。その状態になると、普通のものを見ないで、ブラフマンの本性、ブラフマン以外何もないということを理解できます。

注1) 協会 HP (<https://www.vedanta.jp.com/>) → 「各種勉強会 講話のまとめ」

→ 「インド大使館バガヴァッド・ギーター聖典講義 講話のまとめ」 → 「2020」

→ 「第1回 04月26日 テーマ『トリ・グナについて』」をご参照ください。